



岡麓・春夫妻の肖像

夏消えぬ

雪のたか山やや遠に

しばしば見とも

つねあかなくに



わき水の浅井の

そこの

みえすきて

雨そそげども

にぎりざりけり



麓は明治10年(1877)、東京の湯島に生まれました。子どもの頃は書道を学び、成人してからは、日本を代表する歌人正岡子規について短歌を学びました。書や短歌を教えながらの生活をしていましたが、太平洋戦争が激しくなり、東京が空襲をうけるようになったため、逃れて信州へ疎開してきました。短歌による知人の世話で、明科に少しした後、会染の内鎌に住むことになりました。池田には亡くなるまでの6年間を妻・娘・孫などと生活していましたが、その間に、妻や娘を亡くしています。そのような不幸にもめげずに、歌を作ったり教えたりしました。いくつかの歌集が残されています。

内鎌の会染八幡宮境内には、麓が亡くなった直後に建てられた歌碑「夏消えぬ雪のたか山やや遠に しばしば見とも つねあかなくに」があります。また住んでいた家の庭には「わき水の浅井のそのの見えすきて 雨そそげどもにぎりざりけり」の碑があります。